

房國洲崎神社

祭神

天比理刀咩命(あまのひりとめのみこと)

由緒

神武天皇の御代、勅命により天富命が四国の阿波の忌部族を率いて房総半島を開拓され、忌部の総祖天太玉命を祀ったのが安



関東大震災(大正12年)以前の洲崎神社

房神社で、后神天比理刀咩命の奉持された御神鏡を神霊として祀られたのが洲崎神社といわれます。

治承四年(一一八〇)には、源頼朝が参籠して源氏の再興を祈念し、室町時代には江戸城を築いた太田道灌が、江戸の鎮守として明神の分霊を勧請したと伝えられています。

里見七代義弘は神領五石を寄進し、徳川将軍もこれにならって朱印状を下しました。文化九年(一一八二)には老

中松平定信が筆を振るった「安房國一宮洲崎大明神」の扁額が奉納されています。

また東京・品川神社は、文治三年(一一八七年)源頼朝が安房国の洲崎神社から天比理刀咩命を勧請して祀ったのに始まると伝えられています。

本殿は、延宝年間(一六七三〜八一)の造営とされ、軒先の組物を唐様三手先としている珍しい神社建築として市指定有形文化財になっています。



現在の洲崎神社

例祭

洲崎神社例祭は、例年八月二十日から二十二日まで三日間行われます。みのこ踊り、神輿渡御、芸能祭と伝統をしっかりと引き継いで執り行われています。



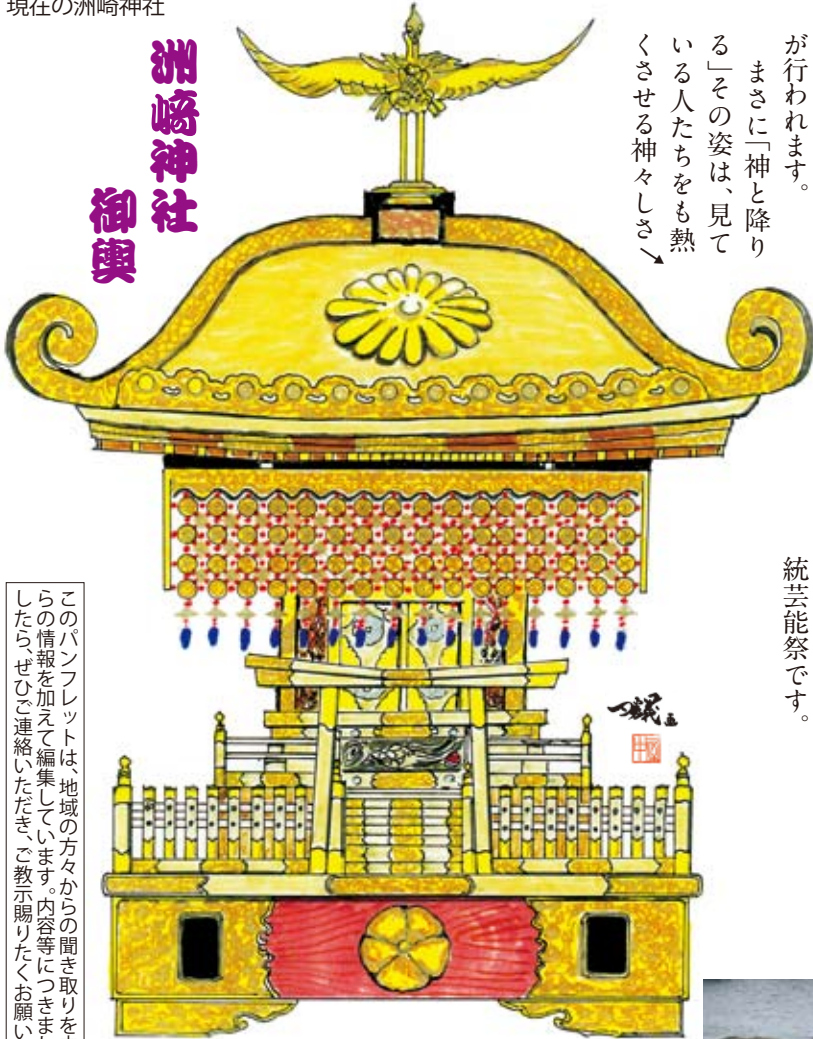
厄除坂を「神と降りる」

洲崎神社例祭は、例年八月に満ちています。その後、三基の神輿は猿田彦神の行列とともに浜に降り、御浜出神事が厳粛に執り行われます。三日目には、地域ぐるみの「芸」

能祭が行われます。

大きな神事を無事行つたあと、みんなの楽しみのひとときです。あたたかい地域ならではの伝統芸能祭です。

まさに「神と降りる」その姿は、見ている人たちをも熱くさせる神々しさ



洲崎神社 御輿

このパンフレットは、地域の方々からの聞き取りを中心に、さまざまな文献・史料からの情報を加えて編集しています。内容等につきましてご指摘やご意見等ございましたらぜひご連絡いただき、ご教示賜りたくお願いいたします。

- 地区名……洲崎
- 神社名……洲崎神社
- 屋根……述屋根(白木)
- 葺手……普及型
- 造り……白木
- 露盤……樹型
- 柱……扇型
- 胴の造り……二重勾欄
- 桝組……五行三手
- 扉……四方扉
- 鳥居……明神鳥居
- 台輪……普及型
- 台輪寸法……四尺
- 制作者……不詳
- 制作年代……昭和初期
- 修復……平成18年8月



御浜出神事



御浜出神事に向かう猿田彦神の行列